

# ベルマーク新聞 12月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都中央区築地5-4-18 汐留イーストサイドビル7階 〒104-0045 電話 03-5148-7255(代表)  
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <http://www.bellmark.or.jp/>

## 額装された校歌、書いたのは生徒

三重・御浜町立尾呂志学園中



御浜町立尾呂志学園小学校・中学校のみなさん

ベルマーク財団が今年度支援したへき地学校のひとつ、三重県御浜町の町立尾呂志学園中学校(竹本和弘校長、生徒10人)が希望した備品は校歌の額2枚。全校集会などで生徒が見ながら校歌斉唱をするものです。これまでは模造紙に印刷したものを貼っていました。今回届いた額に収められたのは、一人の生徒が筆で書き上げた校歌でした。

書いたのは2年生の芝芽衣(しば・めい)さん。11月17日にあった尾呂志文化祭で、竹本校長から感謝状を手渡されました。竹本校長が「通っている中学生が一人で校歌を書き上げたのは、日本で尾呂志学園だけじゃないかなと思っています。本当にありがとう」と労うと、芝さんは、はにかんだような、かわいらしい

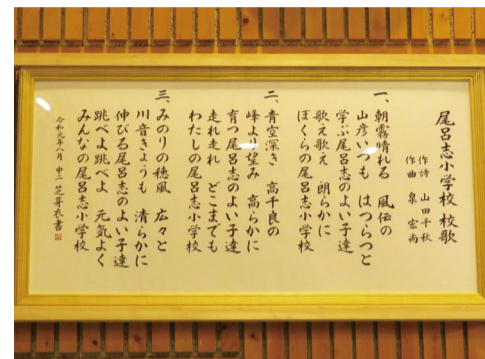
笑顔を見せてくれました。竹本校長はさらに、ボランティアで額の設置をしてくれた地域の方にも感謝の意を伝え、額はベルマーク財団の支援で購入したことも紹介されました。

現在、「六段」の段位を保持している芝さん。お母さんの陽子さんによると、芽衣さんは「書道がとにかく大好き」。以前はピアノも習っていましたが、「私は書道がしたい」という本人の強い意志により、現在は書道に専念しているそうです。

そんな芝さんでも「校歌を書いてみないか」と声をかけられたときは、「ちゃんと書けるかな」と、とまどってしまったそうです。小学校は併設校のため、中学校の校歌とは別で、2つの作品を仕上げる必要がありました。夏休みに毎日250

~300枚の半紙を使い、練習を重ねました。漢字の方が書きやすいそうで、歌詞を書く上では「同じ種類のひらがなを何回も書かなければならなかったこと」に苦労したそうです。清書をする際はお父さんも協力。大きな紙を載せるテーブルを、角材を使って手作りしてくれました。

尾呂志文化祭は、児童・生徒が日頃の学習成果を発表する場です。東京への修学旅行をスライドにまとめた発表では、「田舎者には都会の建物がどれも一緒に見えた」「原宿の竹下通りを何度も往復して有名人を探したが、見つからなかった」といったコメントが笑いを誘っていました。昼食のカレーライスとして来場者にも振る舞われたお米は、生徒たちが収穫した地区特産の「尾呂志米」でした。



①芝さんが書き上げた尾呂志学園小学校の校歌  
②左から、お母さんの芝陽子さんと芽衣さん  
③自分たちで作った「尾呂志米」のカレーライスはおいしいね

芽衣さん、練習お疲れ様でした!!



## レモネードの次は「さつまいも甘酒」

関西学院大の学生、売上から寄付

昨秋「瀬戸内レモネード大作戦」を展開した関西学院大学の学生たちが、今秋は「うまいも甘酒」プロジェクトを実施、売上金から1万2843円を、台風・大雨被災地への支援としてベルマーク財団に寄付しました。

熊本地震の際に現地ボランティアに参加した学生を中心に、有志が大学の生協祭に出店。熊本県のサツマイモ「完熟紅はるか」と、西宮市の蔵元「白鷹」の米麴を使ったさつまいも甘酒を作り、一杯150円で計382杯を完売しました。経費を差し引いた分を台風・大雨被災地支援への寄付金として送金してくれました。

学生たちは昨年西日本豪雨被災地支援のため、自作のレモネードを生協祭で販売する「レモネード大作戦」を展開。今年2月にも同大にある地域の子育て支援セ

ンター「さぼさぼ」で第2弾の大作戦を実施し、それぞれ売上金を財団に寄付しました。

理工学部3年の竹本みぞれさんは「今回もたくさんの人に関わってもらい、いい形で終わることができた。この新たな繋がりがこれからもずっと続いてくれたら」、大学院人間福祉研究科修士課程1年の森美月さんは「気軽に楽しくみんなで応援! 離れていても食で繋がることを実感できて嬉しかった」、社会学部4年の菅夏海さんは「熊本地震のボランティアで感じた現地とのつながりを、『KG(関西学院大)×熊本つながりメニュー』として、普段災害にあまり関心がない学生にも伝えられたのかなと思う。熊本が大好きな仲間との新たなつながりができたのがよかった」とコメントしてくれました。

